

東ティモール民主共和国 ASEANに正式加盟

松澤理事長がヴィエガス駐日大使に祝意を伝達



10月27日、東ティモールのASEAN正式加盟を記念し、在日東ティモール大使館はメトロポリタンホテルで記念式典を開催した。会場にはASEAN加盟国の大使や日本の政財界関係者、東ティモールゆかりの人々が多数参集し、同国の新たな門出を温かく祝福した。

主催者は、10月11日に着任したばかりのマリア・テレジニャ・ダ・シルヴァ・ヴィエガス駐日東ティモール大使。大使は加盟実現への支援に感謝を述べ、「東ティモールは地域の平和と繁栄のために積極的に貢献していく」と力強く決意を表明した。また、グスマン首相から寄せられた祝辞を代読し、国の未来への希望を共有した。

来賓として、今年のASEAN議長国であるマレーシアの駐日大使が祝辞を述べ、日本・東ティモール友好議員連盟会長の中谷元前防衛大臣はヴィエガス大使を紹介し、「日本と東ティモールの絆がASEANを通じてさらに深まることを願う」と語った。

続いて行われた大型ケーキのカットと乾杯では、会場が拍手と歓声に包まれ、在日東ティモール人の若者たちが民族衣装で伝統の歌と踊りを披露。華やかで温

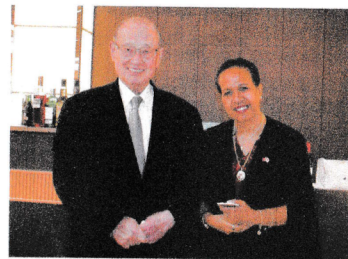


マリア・テレジニャ・ダ・シルヴァ・ヴィエガス駐日東ティモール大使を中心にASEAN加盟国大使ら

かな雰囲気の中、加盟の喜びを分かち合った。

FECの松澤建理事長も出席し、ヴィエガス大使に直接祝意を伝えた。松澤理事長は「ASEANの新たな一員として東ティモールが発展されることを心より期待している。FECとしても今後の交流拡大に力を尽くしたい」と述べた。

東ティモールのASEAN加盟は、同国の国際的地位の向上とともに、日本との経済・文化交流を一層深化させる契機となることが期待されている。



ヴィエガス駐日東ティモール大使（右）と松澤理事長

資源依存経済からの脱却へ 豊富な若手人材の活用を

【特別寄稿】北原巖男 元東ティモール大使・日本東ティモール協会会長・東ティモール名誉総領事



10月26日、マレーシアの首都クアラルンプールで開催された「ASEAN首脳会議」は、東ティモールの加盟を決定しました。2011年3月の正式加盟申請から14年7か月。議長を務めたマレーシアのアンワル・イブラヒム首相曰く、「ASEAN ファミリーの完成である」

高市早苗首相は、当日の「日ASEAN首脳会議」の席上、東ティモールのグスマン首相に祝意を伝えています。（ちなみに日本は、正式加盟申請に先立つ2009年3月、麻生太郎首相が来日したグスマン首相に、円滑なASEAN加盟支持を初めて表明。爾来、加盟に必要な人材育成や経済社会基盤の整備等を支援）ASEAN加盟が決まった瞬間、目頭を押さえていたグスマン首相は、「東ティモールは謙虚さと誇りをもって加盟した。相互尊重、平和協力、多様性の中での調和、地域的連帯というASEANの核心的な価値を全面的に受け入れ、尊重して行く」旨を言明。

ASEANメンバー国としての責任ある行動やAS

EANに対する積極的な貢献等を通じて、またASEAN加盟がもたらす貿易や投資、教育そしてデジタル経済分野等における機会を最大限活かして、東ティモールは国力強化に努め、国際社会においては、持ち前のしたたかな外交力を発揮して行くものと思われま

同時、ASEAN加盟による最大の懸案である域内各国との経済格差の是正・解消、焦眉の急である人材育成、さらには南シナ海等で力による一方的な現状変更の試みを強めている中国との距離感等、同時多発的な厳しい課題も待ち受けています。

東ティモールには、卓越したリーダーを先頭に目標に向かって団結し、成し遂げて来た底力の歴史があります。10月29日、「ASEAN首脳会議」から帰国、記者会見に臨んだグスマン首相は、歓喜の声で出迎えた多くの国民を前に、厳しい口調で呼びかけました。「ASEAN加盟は、我が国に大きな機会をもたらすが、同時に、国民に大きな責任をもたらすものである。特にASEAN加盟の恩恵を受けることになる東ティモールの次代を担う若者たちは、ただ恩恵を受け取るのを待つだけではためた。国が何をしてくれるかを求めるのではなく、自分が国と人々

に何が出来るかを考えよ。そのために、心を広く持て。一生懸命働き、勉強せよ。知識を深め、国や人々に貢献できるための準備をしっかりと行い行い」

現在、人口約150万人・合計特殊出生率4.0・平均年齢21歳・30歳以下の割合が65%の若い国・最低賃金は115F_h/月・資源依存経済からの脱却を目指し経済産業基盤の育成強化を急ぐ、ASEANトップの政治的民主化度を誇る東ティモール。

「民間外交推進協会(FEC)」所属の各企業等の皆様には、こうした東ティモールに対する投資や貿易、豊富な若手人材の活用等について、是非、前向きなご検討をお願いしたいと思います。

東ティモールが独立を回復して今年で23年。この間、我が国の経済関係閣僚・首相の同国訪問はゼロ。脆弱な資源小国日本にとって重要な天然ガス供給元であり、地政学的にも要衝に位置し、我が国が一貫して友好協力関係を重視して来たASEANのメンバーになった親日国・東ティモール。

時宜を失することの無い官民を挙げての対東ティモール日本外交の展開を願って止みません。

(2025. 11. 12記)